

令和7年度 S特選コース

第1回 入学試験問題 (2月1日 午後)

国語 (50分)

注意

- 1 この問題用紙は、試験開始の合図で開くこと。
- 2 問題用紙および解答用紙に受験番号・氏名を記入すること。
- 3 答えはすべて解答用紙に記入すること。
- 4 字数制限のある場合は、特別な指示がない限り、すべて句読点や「」「」などの記号を含んだ字数として解答すること。
- 5 印刷がわからない場合は申し出ること。
- 6 試験終了の合図でやめること。

東京都立大学等々力中学校

受験番号		氏名	
------	--	----	--

一 次の——線の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して答えなさい。

- 1、この地域は養蚕が盛んだ。
- 2、その武将はこの地を根城にした。
- 3、晩冬の気候と思った。
- 4、干潟から海を眺めた。
- 5、傍若無人な態度はよくない。
- 6、作品のコウソウを練る。
- 7、事業のシユウエキを寄付する。
- 8、ナイゾウ検査の診断が出た。
- 9、セイドクに値する本だ。
- 10、人はカイラクを求めるものだ。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

小学四年生の深見和也（ほく）は、転校先のクラスで体格の良い岡崎くんから「フカビ」というあだ名をつけられる。大事に持っていた「苔」の本を「カビ」の本と勘違いされたのが原因だ。以来、ことあるごとに嫌な構われ方をされるようになり、「ほく」は教室にいるのが苦痛になって保健室で給食を食べるようになる。あるとき神社で「学校に行くのが、じつはなくなりますよ」とお祈りをしてると、「一匹の猫かひ」マシナカ」と書かれた葉っぱを示される。神社のおじさんが言うには「ミクジ」という猫の「お告げ」だよ。

その翌週、隣のクラス担任の山根先生が心を病んで退職するといいうわさを聞く。かつて「ほく」は保健室で、山根先生と苔や自分のあだ名について話をすることがあった。次は、再び神社に立ち寄った「ほく」が、ミクジから何も書かれていない葉っぱを示された場面から始まる。

「ミクジが今、また葉っぱをくれました」

ぼくが言うと、おじさんは「え、えええええ！」とすつとんきような声を上げた。

「ミクジにまた会えたんですか!? それはすごい、二回目があるなんて、千年に一度のことかもしれない」

「でも、何も書いていないんです。ぼくの鼻に自分の鼻をくつつけて、ミクジはすぐにまたいなくなっちゃいました」

「鼻チューまで……! いいなあ」

おじさんは両手で口を押さえ、A 体をゆすつた。ぼくは葉をかざす。

「これ、ハガキの木ですよ」

「よくご存じですね。正式名称はタラヨウですが、郵便局にも植えられてそう親しまれていますね」

「はい。前の学校でこれが配られて、そのときおばあちゃんに暑中見舞いを……」

言いかけてぼくは、B 思った。

ハガキの木の葉っぱ。手紙が書けるこの葉っぱ。

「また来ます! ありがとうございます」

① ぼくはベンチから飛び降り、おじさんにお礼を言^かって駆け出した。

山根先生へ

ぼくはカビの図かんを読みました。カビがペニシリンっていう薬になって人の命を救うことや、かつおぶしづくりに役立っていると知っておどろきました。カビのイヤなところばかりじゃなくて、すごいところもわかってうれしかったです。教えてくれてありがとうございます。

深見和也

葉の裏にコンパスの針で手紙を書き、次の日の給食の時間、^{おひめ} 姫野先生に相談した。山根先生に送りたいと言うと、姫野先生は「わかった。私が必ず届けるよ」と預かってくれた。

もっと伝えたいことがある気がしたけど、手のひらほどの葉には、小さい字で書いてもそれでいっぴいだった。

「タラヨウの葉で手紙を書くななんて、風流でいいね」

姫野先生が言った。

「ミクジっていう猫が教えてくれたんだ」

「猫？」

ぼくは苔の図鑑からミクジが最初にくれた葉を取り出し、姫野先生に見せた。

「ここに、マンナカって書いてあるでしょう」

姫野先生は^②何か言おうとした。でもすぐに口を閉じ、うなずいた。

「うん。書いてあるね」

「これね、ぼくへのお告げなんだって。だからずっと、真ん中に行くにはどうしたらいいんだろうって思ってたけど、やっぱり無理だった。ぼくは端っこがちょうどいいみたいだ。苔だってそうなもの。道路の縁ふちとか、コンクリートの隙間すきまとか、花壇かだんの隅すみとかね。真ん中って、ぼくにはひどく疲れる」

姫野先生は^③「うん」と顎あごを引いた。それは肯定こつていの「うん」ではなくて、ちょっと立ち止まるような疑問ぎもんのうなりだった。

「道路の縁を端っこって感じるの、人間だけじゃないか？ 苔は自分が地球の中心だって思ってた生きてるのかも」

すとん、と何かが心の奥に着地した。ミクジがベンチから降りるときみたいに。

そうだ。苔はいつも、真ん中にいるんだ。

自分のいるところが真ん中。自分が本当に思うことが真ん中。自分の中の真ん中。^④それがこの世界の、真ん中だ。

昼休みが終わりそうだった。教室きょうしつに戻ろうと廊下もとを歩いていたら、別棟べつちゅうからピアノの音が聴こえてきた。

ぼくは音楽室おんがくしつに寄ってみた。そつとのぞくと、遠藤（注2）さんがひとりピアノを弾いていた。ものすごくなめらかな演奏だった。遠藤さんは^C指ゆびを動かしている。

あんまり素晴らしい演奏だったので、弾き終わったときに思わず拍手あしづをしてしまった。遠藤さんがびっくりして顔を上げる。そしてぼつが悪そうに笑った。

「すごく上手なんだね。感動した」

ぼくが言うと遠藤さんは立ち上がり、スカートすその裾すそを^D引ひっ張ひった。

「大好きなの、ピアノ。でも、大勢おほぜいの人の前で弾くのは、いやなの。私はピアノがただ好きなだけだけど……弾けるのに伴奏者ばんそうしやを断ことわるのっ

て、わがままなのかな」

ぼくは思い切り首を横に振った。

だってぼくが今見た遠藤さんは、ピアノが好きっていう、その気持ちの真ん中で弾いてたから。もし遠藤さんがいやいや伴奏者を引き受けたら、

E

、きつと。

⑤ それから三日たって、姫野先生が白い封筒をくれた。山根先生からだった。

「もう退院したよ。実家の山形に帰るって」

姫野先生はぼくにそう言い残して、四年三組の教室から出ていった。昼休み、わざわざぼくのところに届けに来てくれたのだ。

男子の大半は、校庭に出て遊んでいる。女子が数人、教室の隅すみにかたまっておしゃべりをしていた。

ぼくは自分の席について封筒をそうっと開いた。中には封筒と同じように白い横書きの便せんが入っていて、きちょうめんな細かい文字が並んでいた。

深見和也くんへ

葉っぱのお手紙を、どうもありがとう。本当に本当にうれしかったです。

カビの図鑑を見てくれたんだね。和也くんの言うとおり、カビはただの悪者じゃなくて、人間の味方になってくれる素晴らしい力を持っている。でも、カビは人間に感謝しろとは言わないし、逆に困らせてやるとか、迷惑をかけてごめんとも言いませんね。カビはただカビらしく生きてるだけです。自然ってそこが一番偉い大で、人間がどうやっても勝てないところだと僕は思います。

地球にとって、もつとも悪なのは人間だという考え方もあって、最高のエ（注）コロジーは人間が減びることだっていう人もいる。そういう面も否定はできないけど、でも僕は、やっぱり人間も何か地球に役立っていることがあるように思います。地球が少しずつ変わって育っていく過程で、もしかしたらやがて本当にいなくなるかもしれない人間も、少なくとも今ここに存在している理由があるんじゃないかって。だって僕たち人間だって、自然の一部なんだから。

たとえば和也くんが苔の素晴らしさに感動したり、「カビは嫌なところだけじゃなくてすごいところもある」って知るとは、地球にとつとても意義のある進化のひとつだと思うのです。そういう気持ちがあるならかの形で地球を助けるような未来につながっているって、そんなふうに見える仕方がありません。それがどんなことなのか、僕には解き明かせないけど。だからどうぞ、これから、知らないことを知りたいとわくわくしたり、好きなことを好きだと思おう正直な気持ちを大切にしてください。

突然学校をやめることになって、ごめんなさい。求められるとおり望まれるとおりの教師であるうとして、おかしいと思うことがあっても気づかないふりでごまかし続けていたら、何かが少しずつずれていって、最後には元の自分がわからなくなってしまいました。

だけど和也くんにお手紙をもらって、こうして返事を書いているうち、思い出したことがあります。

僕は、子どもとこんなふうには話がしたくて、先生になったんだ。

どうもありがとう。少し休んで、僕がただ僕らしく生きられるような仕事を、これから見つけていきたいと思えます。

元気だね。君のこと、決して忘れません。

山根正ただし

ぼくはその手紙を三回繰り返して読み、苔のポケット図鑑に大事に挟はさんだ。お告げの葉っぱと一緒に。

まだ昼休みは少し時間が残っている。ぼくはロッカーから、新しく図書室から借りてきた本を取り出して自分の席で広げた。

⑥ 姫野先生に葉の手紙を託たくした次の日からぼくは、教室で給食を食べるようになった。イヤになったらいつでも保健室に行けばいいって、そう思ったら心が強くいられた。

公文くもんには行かない。お母さんに「学校の授業をちゃんと聞いているから、大丈夫だよ」と話した。その代わりに、というのも違うけど、日曜日に植物園でやってる苔玉づくりのチラシをぼくはお母さんに渡した。公民館のイベント案内コーナーに置いてあったのをもらったのだ。一緒に作ろうよって言ったなら、久しぶりにお母さんは嬉うれしそうに笑った。

予鈴が鳴る。ぼくは本を閉じて、ロッカーにしまうために席を立った。そこに岡崎くんが戻ってきた。

「うわ、フカビ、バイキンの本なんて読んでる！」

⑦ ぼくは無視してロッカーに向かう。腕に抱えている細菌の図鑑には、ドラマチックなことがたくさん書いてある。そんなに不気味がつてるけど、岡崎くんのおなかにだって何億もいて、今この瞬間もすごい活躍してるよ。

ぼくがなんの反応もしないことが気に入らないらしく、岡崎くんが声を荒らげた。

「おい、フカビ。シカトすんなよ」

ぼくはフカビじゃない。だから返事をしない。

「おいっ！」

岡崎くんがぼくの腕をぐいっと引っ張った。

ぼくは低い声で平淡へいたんに言う。

「なに？」

目に力を入れて、正面から岡崎くんを見る。岡崎くんの、まっすぐ真ん中を。

うつむいて縮こまっていたときはずっと上にあった岡崎くんの目が、ぼくの目と同じ高さになる。岡崎くんは急にうろたえて顔をそらし、「なにも」とぼくから手を離れた。

こうしてちゃんと向かい合って並んでみると、^⑧岡崎くんは、ぼくが思っていたほど大きくはなかった。

(青山 美智子「猫のお告げは樹の下で」より)

(注1)「姫野先生」……保健室の養護の先生。

(注2)「遠藤さん」……同じクラスの女の子。合唱コンクールのピアノ伴奏者に推されたが、「できません」と断った。

(注3)「エコロジ」……人間の生活と自然との調和・共存をめざす考え方。

(注4)「公文」……公文式の学習教室のこと。「ぼく」はお母さんから勧められて、無料体験教室に参加していた。

問一、
A
D
にあてはまる言葉として最も適当なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号は一度しか使えません。

ア、あつと イ、じつと ウ、きゅつと エ、イキイキと オ、もたもたと カ、ふるふると

問二、——線①「ぼくはベンチから飛び降り、おじさんにお礼を言って駆け出した」とありますが、このときの「ぼく」の様子の説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、おばあちゃんのこと気がかりになって、うわの空になっている様子。

イ、自分の着想を早く実行に移したくなって、気持ちをはやめている様子。

ウ、タラヨウについてもっと知りたくなり、早く家に帰りたいとあせる様子。

エ、おじさんの親切さに心から感激して、感謝の気持ちを表現している様子。

問三、——線②「何か言おうとした。でもすぐに口を閉じ、うなずいた」・③『うん』と顎を引いた。それは肯定の『うん』ではなくて、ちょっと立ち止まるような疑問のうなりだった」とありますが、それぞれの表現から読み取れる姫野先生の様子として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、②からは姫野先生が自分の感じたことをいったん飲み込んで「ぼく」の話をまずは受け止めようとする様子が読み取れ、③からは「ぼく」の発言に対して覚えた違和感の理由を探し出そうとしている様子が読み取れる。

イ、②からは姫野先生が自分の言いたいことをうまく表現できずに何とか「ぼく」に合わせようとする様子が読み取れ、③からは「ぼく」の発言に納得できない部分を感じて、本心は何かを探ろうとする様子が読み取れる。

ウ、②からは姫野先生が「ぼく」にかけてあげるべき言葉がすぐには見つからず困っている様子が読み取れ、③からは「ぼく」に対して今度こそ何かはげましの言葉を見つけようと必死に言葉を探している様子が読み取れる。

エ、②からは姫野先生が「ぼく」に対して自分の意見を言うことを一度はあきらめてしまう様子が読み取れ、③からは「ぼく」を傷つけないように意見を伝えようと一生懸命に考えをめぐらせている様子が読み取れる。

問四、——線④「それがこの世界の、真ん中だ」とありますが、「ぼく」はここでのどのようなことに気づいたのですか。それを説明した次の文の空欄にあてはまる言葉を、文章中の言葉を使ってそれぞれ指定された字数で答えなさい。ただし、2は文章全体の内容をふまえて答えること。

1、二十字以内

2、十五字以内

問五、

E

にあてはまる言葉として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、ミクジの「お告げ」が無駄になるんだ

イ、「大勢の人」に迷惑をかけちゃうんだ

ウ、「好き」は端っこにいつっちゃうんだ

エ、クラスみんなが「マンナカ」になるんだ

問六、——線⑤「それから三日たって、姫野先生が白い封筒をくれた」・⑥「姫野先生に葉の手紙を託した次の日からぼくは、教室で給食を食べるようになった」とありますが、この二つの表現から読み取れることとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、山根先生の手紙によって「ぼく」は教室に戻る勇気を持つことができたということ。

イ、山根先生の手紙は「ぼく」が教室に戻ることとは何の関係もなかったということ。

ウ、姫野先生は「ぼく」に山根先生の手紙を渡すことをためらっていたということ。

エ、姫野先生の言葉が「ぼく」が教室に戻る直接のきっかけになったということ。

問七、——線⑦「ぼくは無視してロッカーに向かう」とありますが、このときの「ぼく」の心情の説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、自分に嫌な構い方をしてくる岡崎くんが正直怖いけれど、それを相手に悟られないように冷静さを装おうとしている。

イ、人を馬鹿にするような岡崎くんの言葉に強い反発を感じ、細菌の素晴らしい面を探し出すことにむきになっている。

ウ、岡崎くんの言葉が相変わらずうつつとうしく感じたので、なるべく関わらないようにあえて距離を置こうとしている。

エ、岡崎くんの言葉に気持ちを乱されたり怖気づいたりしないで、自分の感じ方やあり方を守って貫こうとしている。

問八、——線⑧「岡崎くんは、ぼくが思っていたほど大きくはなかった」とありますが、ここから読み取れることとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、「ぼく」は転校してきたばかりだったため、岡崎くんの背丈さえ正確には把握しきれていなかったということ。

イ、「ぼく」が自分自身の価値を小さく見積もっていたせいで、岡崎くんを過大に恐れてしまっていたということ。

ウ、「ぼく」に対して岡崎くんは横暴な振る舞いをして強そうに見せてはいるが、実は小心者であったということ。

エ、「ぼく」はいつの間にか心も体も成長していて、岡崎くんに負けなくらい強く大きくなっていたということ。

問九、次の会話は、生徒たちがこの文章について話し合ったものです。——線ア～オのうち、文章の内容にあてはまらないものを一つ選び、記号で答えなさい。

生徒A——山根先生の手紙の中に「地球にとつても意義のある進化のひとつだ」と書いてある部分があるよね。私にはこの言葉の意味がよくわからなかったんだけど、どういうことだと思う？

生徒B——確かにわかりにくいね。山根先生は、昔の素晴らしさに感動することや、カビのすごいところを知ることが、「地球にとつても意義のある進化のひとつ」だと言っているね。どんな生き物も「ただの悪者」ではなくて、「味方になってくれる素晴らしい力」もあると知ることが、どうして地球のためになるのかな。

生徒C——たぶん、^ア人間のものの見方や考え方が変わって、今よりもっと良い方向に変化すると、地球を助ける未来にもつながる、そんなことを主張しているのではないかな。

生徒D——つまり、どういうこと？

生徒C——つまりさ、例えば人間がある生き物を「ただの悪者」と考えて絶滅させてもよいと考えたとする。でも、カビがペニシリンという薬になる力を持っていたみたいに、実はその生き物が人間にとって役に立つ素晴らしい力を本当は持っていたとしたら、絶滅させてしまうとその素晴らしい力も一緒に失われてしまうわけだよ。それは結果的に人間にとって大きな損失になるよね。

生徒D——そうか、最初から「ただの悪者」と決めつけないで「素晴らしい力」も同時に持っているという見方や考え方をしていれば、それが人間を助けるような未来につながっているってことか。でも、それがどうして地球の話につながるんだろう。

生徒E——こういう風には考えられないかな。^イ人間だって自分自身のことを地球環境を破壊する「ただの悪者」と考えるのではなくて、同時に地球を助けることもできる「素晴らしい力」も持っていることとみるべきなんだって。

生徒A——なるほどね。人間が自信を持って自分にも「素晴らしい力」があるという考え方を持てるようになれば、地球を助けるような未来を人間自身が作り出せるってことか。

生徒B——この手紙を読んだ「ぼく」が自信を取り戻して教室に戻れたのも、自分にも「素晴らしい力」があるんだって気づけたからなのかな。

生徒D——そうかもね。^ウ自分が「マンナカ」にいると感じることが「ぼく」の意識の変化につながったこととも、何か関係がありそうだね。

生徒A——確かに。教室に戻った「ぼく」は岡崎くんを腕を引っ張られても、全然動じずに「岡崎くん、まっすぐ真ん中」を見ることが

「ができたよね。これは ^エ 真正面から岡崎くんと対決してやるぞという宣戦布告の姿勢を示していて、「ぼく」の自信と強い意志が表れているね。「ぼく」はものすごい変化を自分に起こすことができ、かっこいいね。

生徒E——それにしても「求められるとおり返まるとおりの教師」であろうとして「最後には元の自分がわからなくなって」しまったという山根先生のことを考えると、ずいぶん気の毒に感じるよ。他人のために努力した結果、自分を見失うなんて。「ぼく」の手紙がきっかけで本来の自分に気づけたようなのが、せめてもの救いだけだね。

生徒B——そういう山根先生の姿とは対照的に、^オ 大勢の人の前でピアノを弾くのが嫌で伴奏者を断った遠藤さんの行動は、「求められるとおり返まるとおり」ではなく、自分の「マンナカ」を大事にしたものだったんだと思ったよ。

生徒C——そうだね。自分の正直な気持ちを通すことは、時にわがままと思われることもあるから、案外難しいことだよ。そういう意味では、遠藤さんも頑張ったね。

【三】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、設問の都合上、一部省略した箇所があります。

【文章Ⅰ】

言語学者はオノマトペを「感覚イメージを写し取る、特徴的な形式を持ち、新たに作り出せる語」と定義するが、その中でも、とくに「写し取る」という特徴が鍵である。

【文章Ⅱ】

現在私たちがオノマトペと見なさない「普通のことば」（一般語）の中には、昔はオノマトペだったものが驚くほどたくさんある。

たとえば、「たたく」「ふく」「すう」という動詞。オノマトペの歴史研究の第一人者である山口仲美によれば、これらの動詞はそれぞれ「タツ」「フー」「スー」という擬音語をもとに作られた語で、末尾の「く」は古語では動詞化するための接辞だった。【ア】

動物の名前にもオノマトペ由来のものが多い。「カラス」「鶯」「ホトトギス」は鳴き声を【A】擬音語「カラ」「ウゲヒ」「ホトトギ」に鳥であることを示す接辞「ス」がついてできた名前だそうだ。「ヒヨコ」は「ヒヨヒヨ」に「コ」。「コ」はかわいいものにつける接辞である。【イ】

これらの事例は、私たちが一般語と認識していることばの多くが、もともとは対象の模倣であるオノマトペに由来する可能性を示唆する。【ウ】そう考えれば、オノマトペではない、一般語にも音と意味のつながりを感じることが多々あることが納得できる。【エ】しかし、オノマトペを効果音のように、間投詞的に使うのではなく、モノの名前や動詞として使うために、接辞をつけたり活用させたりして、一般語の形にしてい

く、オノマトペが持つ「音で意味を模倣している」という感覚が薄らいでいくのだ。

【B】、オノマトペは世界共通とは限らない。【C】言語固有、あるいは地域固有（つまり方言的）なものが多い。そのため、非母語話者は①もとよ

り、同じ言語の話者でも当該の方言を話さない話者にはオノマトペの意味がわからないこともよくある。オノマトペのように対象を模倣したことばでさえ、方言が異なると何を対象にしているのかわからない。この現象はどうして起こるのか？ この問題は、言語の多様性がなぜ、どのように生まれるかを考える上でヒントになりそうだ。

「チャコ」「タコ」「グルー」。これらは日本語の方言における、ある動物の名前である。いずれも方言のオノマトペをもとにしている。その動物が何か、わかるだろうか？

答えはネコである。「チャコ」は東北地方の方言で、ネコを呼び寄せるときの舌打ち音、つまり口の中で舌を動かしながら空気を吸い込む音に由来するそうだ。それに「かわいいもの」を表す接尾辞「コ」をつけて「チャコ」。山形側では「チャコ」、宮城側では音が変化して「タコ」なのだ

そうだ。

鹿児島県喜界島の方言ではネコのことを「グルー」と言う。ネコの喉を鳴らす音から「グルグル」というオノマトペが生じたそうだ。この「グルグル」からネコを呼び寄せるときに使う呼び寄せ語「グルグル、グルグル」が生じ、さらに、「グルグル」の重複部分を取り末尾を長音に変化させて、ネコを表す名詞として使うようになったそうである。

そもそも共通語の「ネコ」という名詞にも、昔は鳴き声を「ネーネー」と写し、それに「コ」という接辞がついたのが由来という説がある。現代では、ネコの鳴き声を「ニヤン」などと写し、幼児語ではネコを「ニヤンコ」とも言う。D、ネコを象徴し、模倣するのには、鳴き声が使われている。しかし、ネコを模すときに使うのは、甘えるときに発するかわいい鳴き声とは限らないのである。鳴き声のほかにも、「グルグル」という喉の音だったり、ネコを呼ぶときに人が立てる音だったり、ネコを指すオノマトペのもととなるものは複数ありえるのだ。そこに、方言や言語によるオノマトペの違いが生まれるのである。

② そもそもオノマトペは対象を写し取っているはずなのに、なぜ言語の間でこんなに多様になってしまっただろうか。その答えはオノマトペは絵や絵文字とどう違うかという話と関係している。絵や絵文字は、比較的容易に対象の物事全体を描くことができる。非常口のアイコンのように、デフォルメされていても全体の特徴を捉えていれば、対象が何かは誰にでもわかる。

しかし、言語の音（声）は、物事の全体像を真似ることが難しい。目立つ特徴をすくいとって模倣するのだが、物事の特徴は複数ある場合が多いので、どの特徴をすくいとるか各言語に選択が委ねられる。たとえば、動物を表すときには鳴き声の模倣が選ばれる場合が多いが、先ほどのネコの例のように、鳴き声のほかに、喉を鳴らす音だったり、ネコを呼ぶときの人の舌打ち音が使われる場合もある。これにより、「写し取り方」に多様性が生まれる。

これは手話でも同じで、ネコを表すのに、アメリカ手話では片手の人差し指と親指で髭を一本つまむ仕草をするのに対して、イギリス手話では両手の五本指で髭をなぞり、日本手話ではネコが顔を洗うように片手のこぶしを頬に当てる。それぞれ、ネコの目立った特徴を写し取っているものの、何をどのように写すかは言語によって異なり、多様なのだ。

さらに、オノマトペは環境の音をそのまま模倣するのではなく、当該言語の音韻体系の制約を強く受けている。ニワトリの鳴き声は日本語では「コケッココ」だが、英語では日本語が通常用いない「ドゥ」という音を使って「コッカドゥドゥドゥー cock-a-doodle-doo」と写すし、中国語では「グーグーグー guāguā」、タミル語では「コッカラココ kokkara-ko-ko」と聞く。そこでさらに言語による多様性が生まれる。

ただ、オノマトペの音と意味のつながりは、母語話者でなければまったく感じられないかというわけでもない。オノマトペを一つ言われて、何を指しているかと問われると正解するのは難しいかもしれない。しかし、大腿でゆっくり進む動作と足を小股で細かく動かしながら進む動作を見せ、どちらが「ノシノシ」でどちらが「チョコチョコ」かを尋ねる実験のように、^③ 対立する概念に対して二つのオノマトペを提示し、

どちらのオノマトペがどちらに対応するか尋ねると、その言語を知らない人でも偶然より高い確率で当てることができる。

多くのオノマトペのアイコン性は、特定の言語コミュニティの中で対象の持つ複数の特徴の中から選ばれ、見出されたものである。だからその言語コミュニティの話者は、そのオノマトペに対して強いアイコン性を感じる。しかしコミュニティの外の人間には、それほどのアイコン性は感じられない。多くの場合、まったく感じないわけではなく、いくつかの候補の中からの選択なら、ランダムよりは高い確率で正答できる。つまり、母語の外のオノマトペには、概してうっすらした音と意味のつながりなら感じることができる。オノマトペでその程度なので、オノマトペでない一般語に感じる音象徴はもつと弱い。

日常のコミュニケーションでオノマトペがなくてはならない日本語でさえ、語彙全体で考えれば、オノマトペの割合は大きくない。『日本国語大辞典』の収録語が方言や古めのものも含めて50万語で、最大のオノマトペ辞典である小野正弘編『日本語オノマトペ辞典』は方言や昔のオノマトペまで入れて4500語、単純計算するとオノマトペは語彙全体の1%程度である。世界でも、オノマトペが一般語（非オノマトペ）よりも少ないという言語は聞いたことがない。反対に、体系化されたオノマトペ語彙を持たない言語は世界にたくさん存在する。英語はそのよい例である。

（今井むつみ・秋田喜美「言語の本質」より）

- (注1) 「接辞」……………他の語に接続して意味や用法を加える言葉。他の語の後ろに接続するものを「接尾辞」と言う。
- (注2) 「模倣」……………真似ること。
- (注3) 「示唆」……………それとなく教えること。
- (注4) 「間投詞」……………話し手が感情を直接表現する際に用いる、語句の間に投入される言葉のこと。「あっ」「やれやれ」など。
- (注5) 「母語」……………幼児期に最初に習得される言語。
- (注6) 「アイコン」……………物事を簡単な絵柄で記号化して表現するもの。
- (注7) 「デフォルメ」……………対象物の特徴が目立つように、もともとの形を変えて表現すること。
- (注8) 「コミュニティ」……………共同体的こと。
- (注9) 「ランダム」……………特定の基準やパターンに従わず、偶然に選ばれること。

問一、文章中には次の一文が抜けています。この文を入れるべき最も適当な箇所を文章中の【ア】～【エ】から選び、記号で答えなさい。解答には□をつけず、ア～エの記号で答えること。

同様に、なんと「はたらく」も「ハタハタ」というオノマトペを語源に持つとされる。

問二、【文章Ⅰ】の中の言葉をもとに、【A】にあてはまる言葉を二字で考えて答えなさい。

問三、【B】～【D】にあてはまる言葉として最も適当なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号は一度しか使えません。

ア、むしろ イ、しかし ウ、つまり エ、すると

問四、——線①「もとより」の意味として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、基本的には イ、多くの場合 ウ、言うまでもなく エ、もともと

問五、——線②「そもそもオノマトペは対象を写し取っているはずなのに、なぜ言語の間でこんなに多様になってしまうのだろうか」とありますが、その答えとなる次の文の空欄にあてはまる言葉を答えなさい。ただし、1は【文章Ⅱ】中の言葉を使って十五字程度で答え、2は【文章Ⅱ】の中から二十字で探し、最初と最後の五字をそれぞれ抜き出して答えなさい。

言語の音（声）は物事の全体像を真似しにくいいため、1、十五字程度が必要であるのに加え、2、二十字から。

問六、——線③「対立する概念に対して偶然より高い確率で当てることができる」とありますが、それはオノマトペにどのような特徴があるからですか。【文章Ⅱ】の中から九字で探し、抜き出して答えなさい。

問七、——線③以降の【文章Ⅱ】の中には対義語に書き換えられている言葉があります。それを一単語で探して抜き出し、正しい言葉に訂正ていせいしなさい。

問八、【文章Ⅱ】で述べられていることとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、「普通のことば」は、もともとオノマトペから生じたと気づかれないように工夫して作られたものが多い。
- イ、オノマトペは、表現されるものの特徴をもとに表わされているため、非母語話者でも意味を判断できる場合がある。
- ウ、母語話者が、非母語話者であってもなんとなく意味が分かるように音の表現を工夫して作ったオノマトペもある。
- エ、日本語は方言が多いため、日常のコミュニケーションに際してオノマトペは欠かせないものになっている。

問題は次ページに続きます。

四

次の資料を見て、あとの問いに答えなさい。

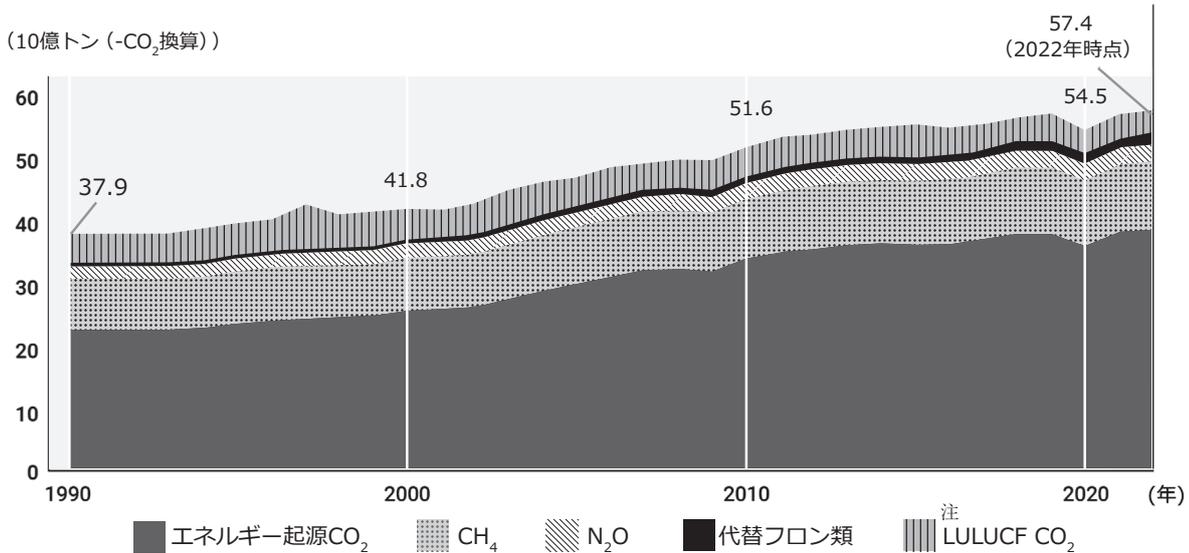
資料A

「温室効果ガス」とは、地表から放出される赤外線を吸収しやすく、地球の温暖化に関係する大気中の気体のことである。温暖化ガスともいう。二酸化炭素 (CO₂)・メタン (CH₄)・亜酸化窒素 (一酸化窒素、N₂O)・フロン・代替フロンなどをさすが、温暖化にかかわる割合は、二酸化炭素が50%以上をしめる。

「再生可能エネルギー」は資源がかれる心配がなく、永続的に使うことができるエネルギーのことである。自然の力を利用したエネルギーで、風力・太陽光・太陽熱・地熱・波力・バイオマスなどがある。自然エネルギー、新エネルギーとほぼ同じ意味で使われる。「再生可能」と名付けられているが、エネルギーを再利用 (リサイクル) するわけではない。

(出典：「学研キッズネット」より作成)

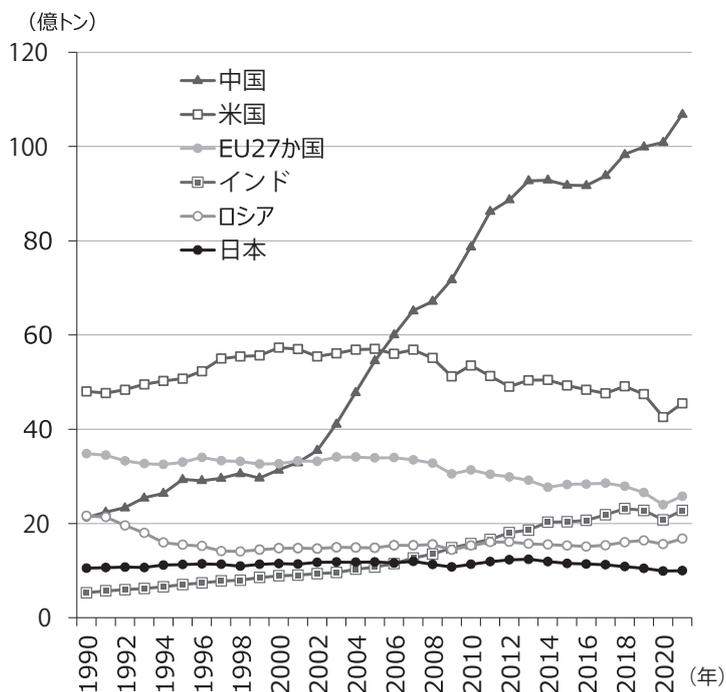
資料B 世界の温室効果ガス排出量の推移



注「LULUCF CO₂」……「LULUCF」は「Land Use, Land-use Change and Forestry」の略で、「土地利用、土地利用変化および林業」と訳される。土地利用や土地利用の変化、林業によって生じる二酸化炭素のことを表す。

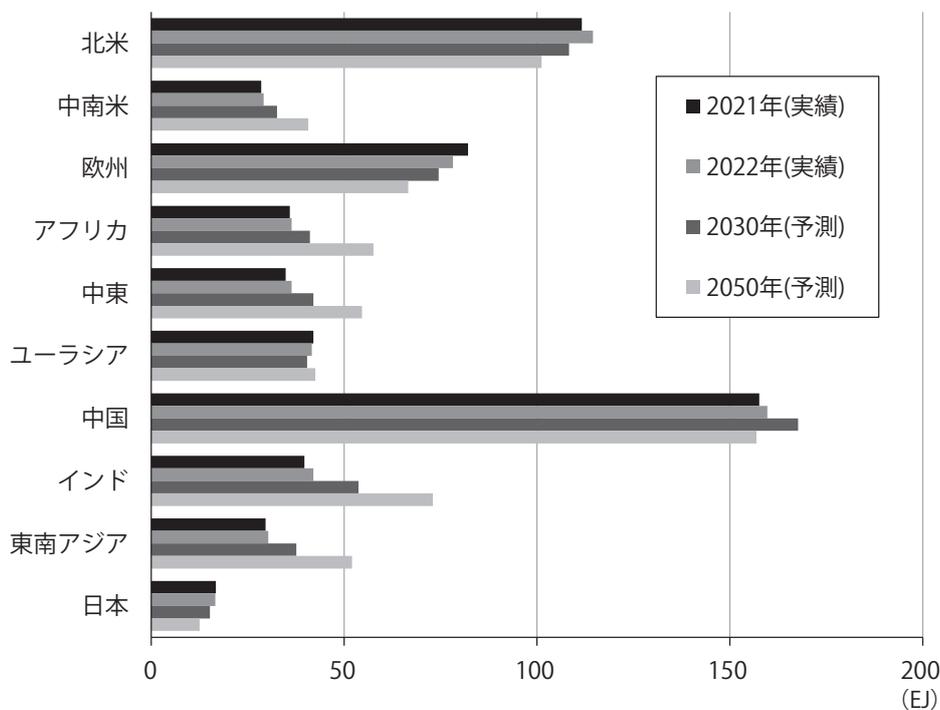
(出典：経済産業省 資源エネルギー庁「令和5年度エネルギーに関する年次報告(エネルギー白書2024)」より)

資料C エネルギー起源CO₂ 排出量の推移（国別）



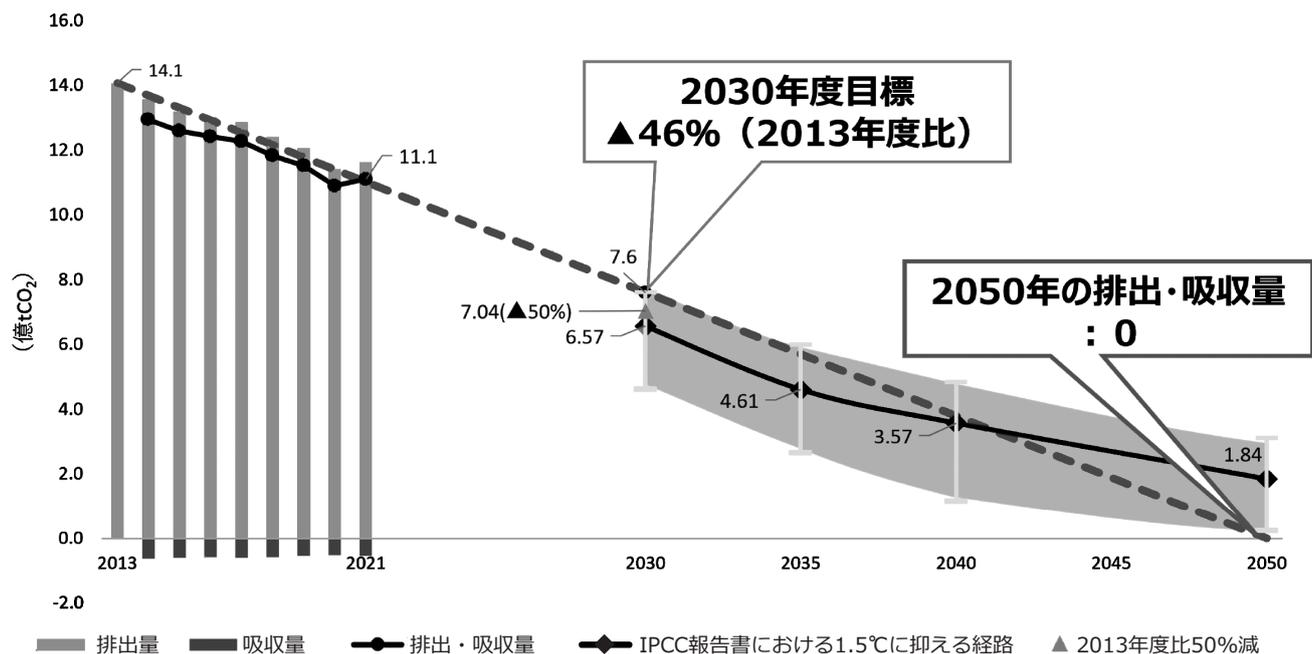
（出典：経済産業省 資源エネルギー庁「令和5年度エネルギーに関する年次報告(エネルギー白書2024)」より）

資料D 地域別のエネルギー需要の見通し



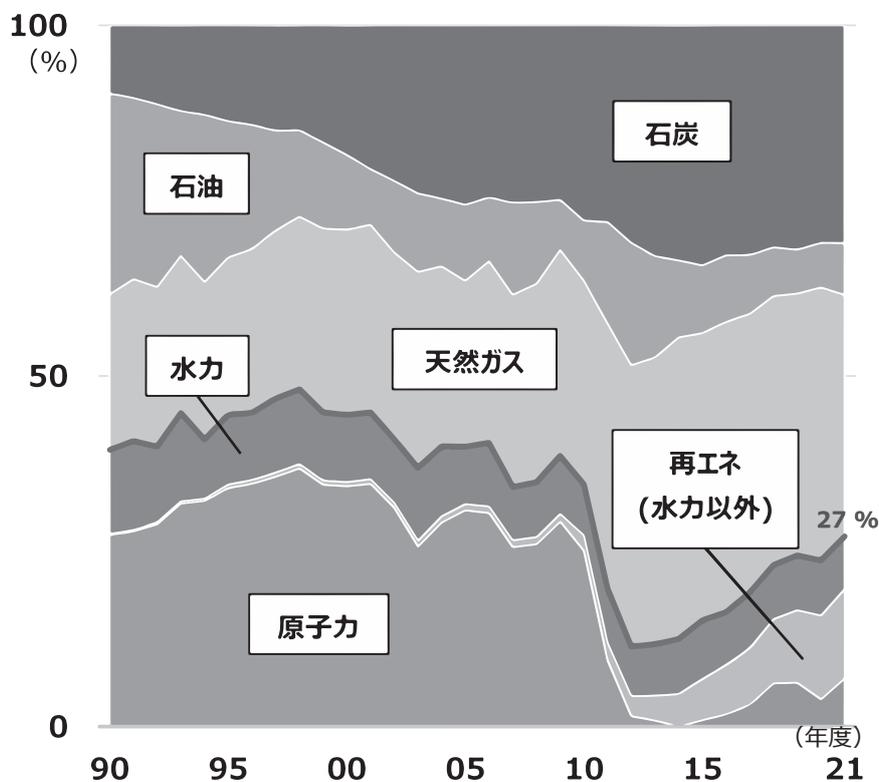
（出典：経済産業省 資源エネルギー庁「令和5年度エネルギーに関する年次報告(エネルギー白書2024)」より）

資料E 日本における温室効果ガスの削減状況



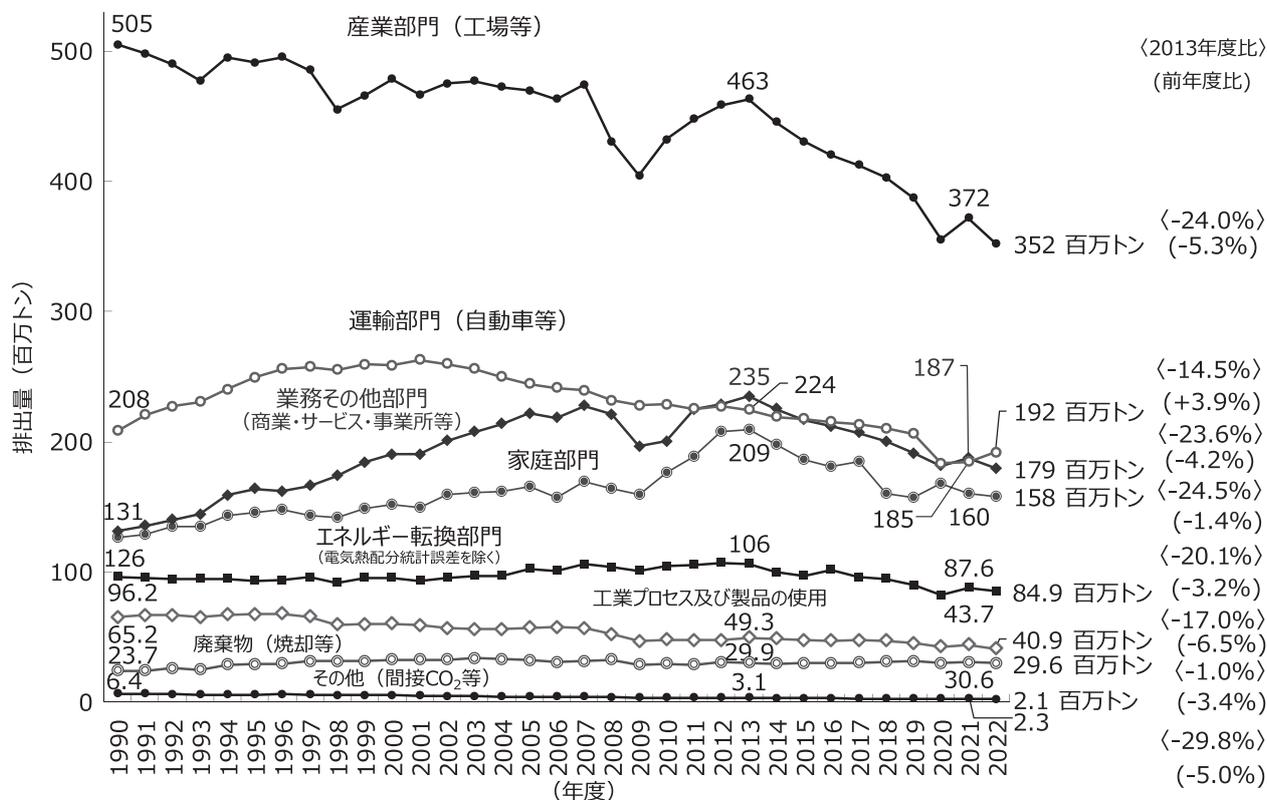
(出典: 経済産業省 資源エネルギー庁「令和5年度エネルギーに関する年次報告(エネルギー白書2024)」より)

資料F 日本における電源構成の推移



(出典: 経済産業省 資源エネルギー庁「令和5年度エネルギーに関する年次報告(エネルギー白書2024)」より)

資料G 日本における部門別のCO₂排出量の推移



(出典:環境省 国立研究開発法人 国立環境研究所「2022年度温室効果ガス排出・吸収量(概要)」より)

資料H

①温室効果ガスの削減目標と進捗状況（進み具合）

日本は、2030年度のNDCとして、2013年度比で温室効果ガスを46%削減する（さらに50%の高みに向けて挑戦を続ける）ことを目指しています。この目標の達成に向けた進捗として、2021年度における温室効果ガスの削減実績は %となっています。日本のNDCにおける基準年度である2013年度の温室効果ガス排出量の実績と、2030年度の目標を結んだ直線（基準年における実績値と目標値を結んだ直線のことを、以下「目標ライン」という。）を、実際の温室効果ガス排出・吸収量の実績と比較すると、2021年度時点においては、概ね目標ラインの水準に沿ったペースとなっていることがわかります。日本では、温室効果ガスの削減が着実に進んでいる状況（オントラック）です。

なお、日本の温室効果ガス排出量のうち、エネルギー起源CO₂が占める割合は85%となっており、これは確認している主要国の中で最も高い数値となっています。日本が温室効果ガス排出量を削減していくためには、徹底した省エネの取組とともに、一次エネルギーの大半を化石エネルギーに依存している現在の日本のエネルギー供給構造を、非化石エネルギー中心の構造へと転換するための取組を進めていくことが極めて重要です。

②エネルギー供給の脱炭素化（非化石電源の拡大等）

日本では、2021年10月に閣議決定された「第6次エネルギー基本計画」において、「2030年度におけるエネルギー需給の見通し」を示しています。これは、2030年度のNDCに向けて、徹底した省エネや非化石エネルギーの拡大を進める上での需給両面における様々な課題の克服を野心的に想定した場合に、どのようなエネルギー需給の見通しとなるかを示したものです。この中では、2030年度の電源構成に占める各発電方式の割合の見通しについても記載しており、その中で、非化石電源である の割合については36%～38%程度、原子力の割合については20%～22%程度を見込むとしています。

この2030年度の見通しに対する日本の電源構成の推移を確認すると、 の導入拡大や、2011年に発生した東日本大震災後に稼働を停止していた原子力発電所の再稼働の進展等により、近年は非化石電源が着実に拡大していることがわかります。しかし、2021年度時点の非化石電源比率は27%に留まっており、今後、日本が排出削減をより一層進めていくためには、非化石電源の拡大に向けた取組の加速が必要不可欠となっています。2023年7月に閣議決定された「脱炭素成長型経済構造移行推進戦略」（以下「GX推進戦略」という。）の中でも、 の主力電源化と原子力の活用に向けた様々な取組の方針を明記していますが、非化石電源の拡大に向けて、こうした取組を着実に進めていくことが求められています。

また日本では、燃焼時のCO₂排出が他の化石エネルギーよりも少ない天然ガス火力の導入を過去から進めてきた一方で、電源構成の約3割を燃焼時のCO₂排出の多い石炭火力が占めているという特徴も見られます。石炭火力については、電力の安定供給の確保を大前提に、電源構成における比率を低減させることとしています。

注「NDC」……温室効果ガスの排出削減目標。Nationally Determined Contribution の略。

（出典：経済産業省 資源エネルギー庁「令和5年度エネルギーに関する年次報告（エネルギー白書2024）」より作成）

問 一、資料 A ～ G から読み取れることとして適当でないものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア、地球温暖化に係る温室効果ガスの排出量は世界全体で考えても増加している。
- イ、世界の温室効果ガス排出量は、二〇二二年時点では五七四億トンであり、一九九〇年と比べると約一・五倍以上増えている。
- ウ、各国のエネルギー起源 CO₂ の排出量は、二〇〇五年時点で中国が米国を抜き、最も多くなっている。
- エ、インド、東南アジア、中東、アフリカ、中南米は、これから先エネルギー需要の増加が見込まれている。
- オ、二〇一三年から二〇二一年における日本の温室効果ガスの削減状況を見ると減少している。
- カ、日本の温室効果ガス排出量のうち、エネルギー起源 CO₂ が占める割合は主要国の中で最も低い数値となっている。

問 二、次の会話は、生徒たちが資料 G を見て話し合ったものです。——線ア～エのうち資料 G の内容にあてはまらないものを一つ選び、記号で答えなさい。

生徒 A —— 二〇二一年度から二〇二二年度の CO₂ 排出量の変化を部門別に見ると、^ア排出量はいくつかの産業部門は五・三%も減少しているんだね。

生徒 B —— たしかに。二〇二一年度と二〇二二年度の比較だと産業部門が排出量の変化の数値が最も高く、その次に業務その他部門が続いているんだね。

生徒 C —— そうだね。ただ私が気になるのは、^ウ運輸部門の排出量が三・九%増加していることかな。輸送量とかが関係しているのかもしれないね。

生徒 D —— そうだよな。私も気になっているのは、^エ家庭部門の変化の数値は二〇二一年度と比較すると減少しているわけだけど、一九九〇年度と比較すると増加しているんだよね。やっぱり私たち一人ひとりの努力が大切なんだって思うよ。

問 三、資料 H の I にあてはまる数字として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、21
- イ、44
- ウ、46
- エ、79

問 四、資料 H の II にあてはまる言葉を資料 F から探し、抜き出して答えなさい。

